



# 自民党・無所属 大阪府議団だより



はら だ

## 原田こうじ

### 議員が都市住宅 常任委員会で質問



池田市  
選出

原田議員は、10月13日に開かれた都市住宅常任委員会において、グランドデザイン・大阪都市圏への取り組みや阪神高速の「端末区間割引」への見解を求め、府営住宅の空室の活用などについて質問しました。

#### プロフィール

昭和55年9月5日生まれ。大教大附属池田小学校、大教大附属池田中学校、関西大倉高校、甲南大学法学部卒業。(株)NEXYZ勤務を経て、衆議院議員 原田けんじ 秘書。平成27年4月より大阪府議会議員(1期目)。都市住宅常任委員会委員。広報委員会所属。

#### グランドデザイン・大阪都市圏

## 府県を越え、都市間連携で成長・発展をめざす

### 「広域連携型都市構造」について問う

**Q. 原田議員** 府域全域を成長・発展させようという「グランドデザイン・大阪都市圏」が策定されることは喜ばしく、地域資源を活かし、府県を超えた都市間連携により魅力的な都市空間を創造していくという「広域連携型都市構造」の考え方は、これまでにない発想の提案である。この計画に基づき府域全体の成長・発展をめざそうとする、その想いはいかがか。

**A. 住宅まちづくり部長** 「グランドデザイン・大阪都市圏」では人口の定住促進につながる都市空間づくりを進めるとしており、そのためこれまでの発想を転換し、府県にとらわれず、府県境を挟む市町村が互いに手を取り合って成長・発展するという「広域連携型都市構造」を提案いたしました。具体的には淀川舟運の復活によるにぎわいづくりなど、府県を超え、新たな都市の魅力創造に府内市町村と共に全力で取り組んでまいります。

### 能勢街道周辺のまちづくりの進め方は？

**Q. 原田議員** 私の地元にも、大阪市北区から豊中市、池田市、川西市、能勢町、そして亀岡市に至る能勢街道があり、池田市には海外からも注目を集める「逸翁美術館」や「落語みゆーじあむ」などの文化施設もある。このような歴史ある能勢街道周辺の豊富な地域資源を活かしたまちづくりは、どのように進めていくのか。

**A. 都市空間創造室副理事** 池田市と川西市が開催している「猪名川花火大会」のように、歴史的・文化的資源を有効活用した地元の熱意ある都市間連携の取り組みが、能勢街道の至るところで生まれ、魅力あふれる都市空間となるよう、積極的な働きかけを行ってまいります。



### 阪神圏の高速道路料金一元化

#### 一般道路の渋滞緩和にも有効な 「端末区間割引」 (阪神高速池田線)の継続を!

**Q. 原田議員** 池田市では、短距離利用の料金を低減する「池田線端末区間割引」(\*)が導入されているが、阪神高速の新料金(基本方針(案))では、端末区間割引は料金割引としては廃止と推測される。これを前提とした場合、当該区間の料金は現在の2倍以上になる(通勤時間帯)。阪神高速の「端末区間割引」を含めた短距離利用料金の低減について、道路整備課長の考えはどうか。

(※阪神高速池田線の利用促進を図り、国道173号や国道176号の渋滞緩和を図るため、導入。阪神高速池田線の池田木部ランプから神田ランプまでの約3kmの区間について、普通車・通常510円が310円、一般道路の渋滞が著しい通勤時間帯は半額の150円で、短距離でも高速道路利用を促すもの。)

**A. 道路整備課長** 端末区間割引について池田線は、料金割引としての継続は困難と推測されるが、新料金移行にあたり、阪神高速全体で下限料金を引き下げる等、工夫が必要と認識しております。大幅負担増が懸念される場合には、激変緩和措置の対応も考えられます。短距離利用料金の低減は、高速道路の利用促進や一般道路の渋滞緩和にも有効であり、効果的な利用料金について国に具体的な内容を提案してまいります。

### 府営住宅の空室活用

#### 子育て支援に、府営住宅の 空室を積極的に活用すべき

**Q. 原田議員** 「大阪府営住宅ストック総合活用計画(案)」において、待機児童対策など子育て支援のため、府営住宅の空室を積極的に活用していくことが示されている(\*\*)。空室活用による子育て支援へどのように取り組んでいくのか。  
(※平成37年度までに「子育て支援への空室活用」について30件以上の活用を目標として設定している。)

**A. 経営管理課長** 小規模保育事業所の導入など、子育て支援拠点としての空室活用を積極的に進め、地元の市や町、NPO等の団体に対し具体的で身近な事例を紹介することにより、活用意欲を高めながら拡大に取り組んでいきます。

#### 府営池田伏尾台住宅の 空室活用について

**Q. 原田議員** 池田市の伏尾台地域は、急速な高齢化や若い世代の流出が大きな課題であり、地域活性化の整備が必要な状況にある。府営池田伏尾台住宅において、空室の活用で子育て支援への取り組み計画があり、実現すれば地域が抱える課題解消の鍵になりえる。府営池田伏尾台住宅では、どのような活用が予定されているのか。

**A. 経営管理課長** 現在、府営池田伏尾台住宅に隣接する旧伏尾台小学校で不登校児童生徒のためのフリースクールを行うNPO法人が空室を活用し、地域の子育て環境の充実に向けた活動拠点の開設を予定しています。